

● 地域提案型

平成19年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	チュニジア
2. 事業名	チュニジア国トズール伝統レンガのデザイン開発支援 Support for design development of traditional Tozeur brick in Tunisia
3. 事業の背景と必要性	<p>チュニジア国トズール・サハラウイ地区はチュニジア南部のサハラ砂漠に隣接するオアシスの町で、そこでは零細の家内工業群がその土地独特のレンガを太古の昔からの方法で生産しその伝統を守っている。このレンガはこの地方特有の粘土と砂を原料とし、昔からの手作り法で成形し、天日で乾燥して、小さな窯で椰子の枯れ木を燃料として焼成して造られている。この伝統レンガは化粧レンガとして住宅、建築物の壁、門、内装などに大量に使われ、レンガによって凹凸をつけて施工された独特の幾何学模様は、歴史的な価値のある伝統建築様式として伝えられてきている。</p> <p>トズールは独特な太古からのレンガの街としてチュニジア国内だけでなく海外からこれを観るために観光客が訪れる要所の一つにもなっている。このレンガは大切な伝統建築材料であるにもかかわらず、レンガの生産者らは厳しい労働条件のなかで極めて零細で貧しい生活を余儀なくされ、その現状から抜け出せない状態となっている。また、トズールの都市拡張計画とレンガ工業から環境汚染問題が関係して、レンガ生産のサハラウイ地区はレンガの生産性向上、環境改善、労働条件改善、新製品のデザイン開発力向上による工業化振興が緊急を要する問題となっている。</p> <p>国と市当局は南部開発公社（ODS）と商工業工芸連合会（UTICA）を通じて、このレンガの生産と環境の問題解決にのりだした。当局は地域振興の一助として、このレンガを「一村一品」に取り上げ、このレンガの品質と生産性の改善、新しい商品化を推進することになった。JICAは同国の要請によりレンガ専門のSVを派遣して商品開発を支援している。</p> <p>一年間のSVの活動により、伝統レンガの生産性の改善の方法や、現地の原料を使用した伝統レンガの「風合い」を持たせた無焼成レンガなどの新しい商品の開発のレシビが出来てきている。CP（カウンターパート）らとの共同作業で、このレンガの生産母体となるレンガ生産者協同組合の結成も進行しつつある。</p> <p>レンガの新たな商品開発と品質改善には、まず製品の付加価値を高めるためのデザイン性向上が不可欠であり、さまざまな市場ニーズを把握し、それに適応した高品位なデザイン開発を行わなければならない。しかし、トズールのレンガ生産は、太古からの伝統模様を手作りによって代々継承してきており、市場は地域内に限定され、幅広い市場ニーズ、異なる建築様式、多様なライフスタイルの需要に基づく製品開発を行うための技術や装置は皆無である。この地域の伝統的レンガ建築は、国内はもとより海外からも魅力的な観光資源として認知されており、そこで産出されるレンガ自体も地域ブランド製品として将来的な発展が十分可能であるが、生産基盤と開発技術が整っていないために工業製品として地域を越えた市場化の展望が拓けていない。ゆえに、伝統的レンガの風合いを活かしながらも幅広い市場ニーズに適応し得るデザイン開発技術の習得を如何にするかが問題点といえる。</p>
4. 事業の目的	日本の陶磁器製造技術及びデザイン開発技術の習得による現地生産製品の多品種化、高品質化による市場競争力の向上
5. 対象地域	チュニジア国トズール・サハラウイ地区（研修は多治見市で実施）
6. 受益者層	<ul style="list-style-type: none"> チュニジア開発協力省南部開発公社及びレンガ製造者協同組合 レンガ製造従事者とその地域住民
7. 活動及び期待される成果	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石膏型によるレリーフ模様の成形技法指導 釉薬及び絵付けによる加飾技法指導 レンガの素材・製造技法を活かした民芸品の製品開発指導 コンピュータ機器によるパンフレット・製品カタログの制作指導 レンガ、タイル、飲食器製造工場視察、日本人技術者との交流 <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> レンガの多品種、高品質化 デザインを主とした製品付加価値の向上による産地ブランドの確立 観光資源（伝統的レンガ建築）とリンクした陶磁器製品（民芸品）の開発 広範な市場ニーズに適応した製品開発による販路拡大 レンガ生産者らの収入増と歴史的伝統を継承・発展 <p>これにより、レンガ生産者協同組合のメンバーはそれぞれオリジナルの製品開発を行い、製品バリエーションを増やして産地ブランドを確立することで、新たな需要が喚起されて収入が増し、過酷な労働条件からの脱却につながる。また、高品質で多様なレンガが生産出来れば、製品はトズールの街だけでなく、より広く販路の拡大と供給が可能となり、近隣地中海地区やアフリカ、ヨーロッパへ輸出できる商品となる可能性が生まれる。</p>
8. 実施期間	2008年8月15日～8月30日
9. 事業の実施体制	技術指導は多治見市陶磁器意匠研究所が担当する。当該事業終了後の技術支援は、多治見市が都市間交流事業の一環として継続的に対応することが可能である。また、JICAが支援するチュニジア南部の地域経済振興のための「一村一品」運動として、JICA SV とチュニジア人のCPが現地サイトでフォローアップにあたる。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	岐阜県多治見市（岐阜県多治見市）
2. 対象国との関係、協力実績	多治見市陶磁器意匠研究所は、昭和49年度からJICA研修「釉着彩コース」の研修員を計200名以上受け入れてきた実績がある。